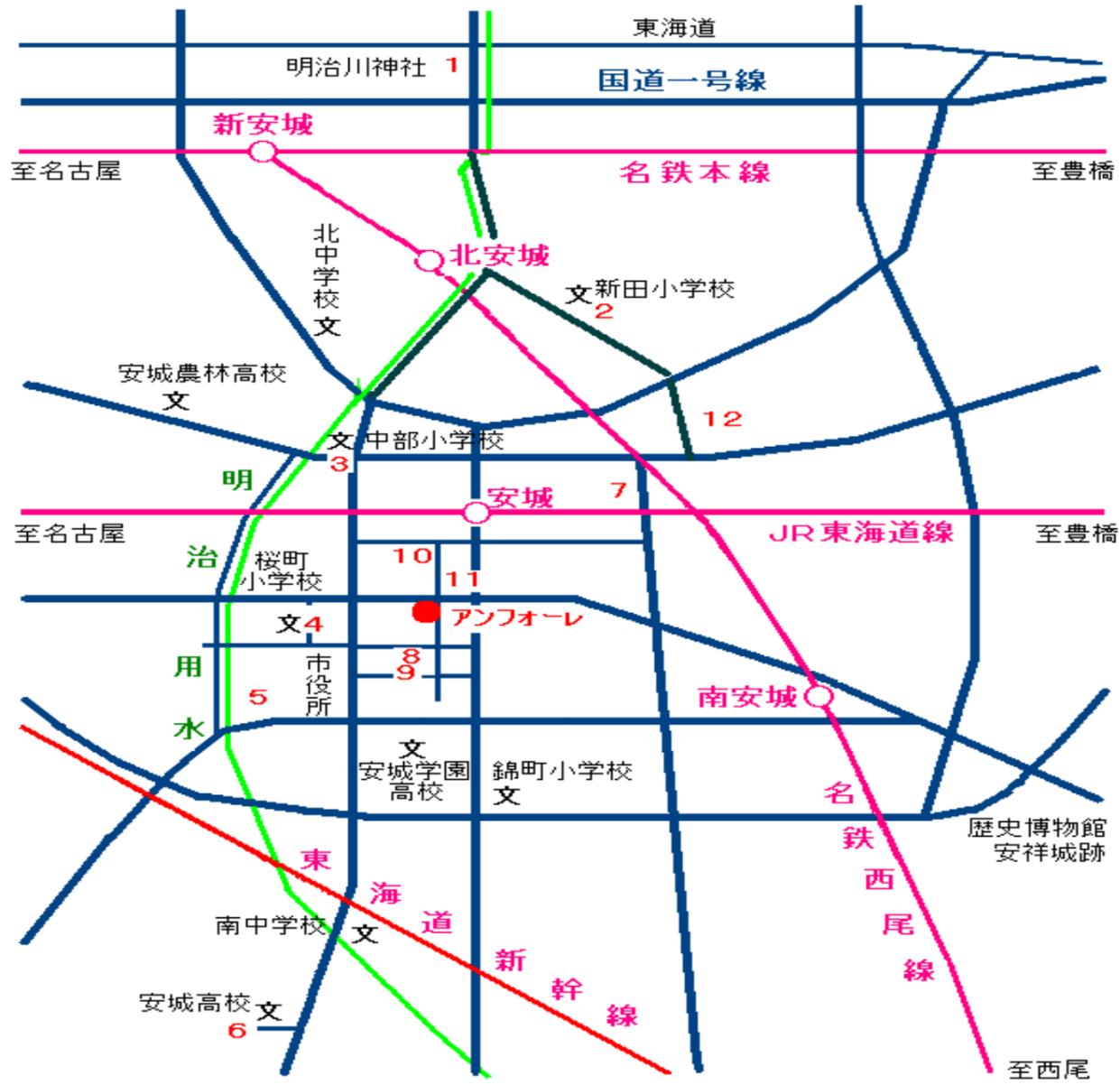


南吉文学散歩

安城市内のゆかりの地を
訪ねてみましょう



1	明治川神社（東栄町）	明治用水にゆかりの深いこの神社に、南吉は生徒と一緒にたびたび立ち寄っていました。散策で見てきたことを、詩や作文に書かせています。また、弥厚伝を書くための調査にも訪れていました。
2	百姓家詩碑（新田小）	「おきよこの百姓家からもれてくるハモニカを…」これは下宿先の農家の情景なのでしょう。碑の横には、ハモニカを吹く少年の石像も建てられています。
3	貝殻詩碑（中部小）	「貝殻」の詩に、「かなしいときは貝殻鳴らそ…」と書いた南吉。この詩碑は、南吉の自筆原稿を転写して石に彫ったものです。
4	ででむし詩碑・安城高女址碑（桜町小）	高等女学校の教え子と同僚は、南吉の亡くなった5年後に、学校の中庭にこの詩碑をつくりました。南吉顕彰では、最も早くできた第1号詩碑で、生徒詩集「雪とひばり」の巻頭詩が刻まれています。隣には「安城高等女学校址」の碑もあります。
5	牛詩碑（安城公園）	大正2年の丑年生まれだった南吉。当時の安城は、町なかでもたくさんの牛がみられました。「牛」の詩は昭和14年2月に書かれ、「牛は重いものを曳くので首を垂れて歩く…」と刻まれています。
6	新美南吉生誕百年記念碑（安城高）	詩「寓話」の一節、「君達も大きくなると 一人一人が旅をしなきやならない…」新美南吉生誕百年を記念して、平成25年に、安城高校（安城高等女学校の後身、昭和54年に赤松町に移転）の中庭に、新しく建立されました。
7	稲荷神社（明治本町）	古安城聞書に「四本木（稲荷社のところ）狐が庄屋にたのみにきて、四本の木を残してもらった。」と書いています。そのためこの稲荷神社は、四本木稲荷とも呼ばれています。
8	花ノ木橋（花ノ木町）	「はなのき」というかわいらしいメルヘン風な地名の、花の木町へ通じる道の橋にかかっていた欄干の石柱を使って、現在ここはポケットパークとなっています。
9	花ノ木地蔵（花ノ木町）	花ノ木地蔵は、元は花ノ木観音の境内にあった小さなお地蔵さんで、「花のき村と盗人たち」に登場する小さいお地蔵さんのモデルかも知れません。
10	ウォールペイント（中心市街地一帯）	巨大な壁画となって南吉が、そして、南吉の作品世界が、我々を取り囲んでくれます。南吉生誕百年記念継続事業として、街なかの公共施設や商店街の店舗に、南吉や南吉作品を題材とした壁画が制作されています。
11	オブジェ「南吉語らいの椅子」（御幸本町）	生誕百年を期して、この通り沿いの歩道に、南吉の面影に出会えるモニュメントやオブジェが次々に設置されています。現在、語らいの椅子の他、高等女学校の校舎をイメージした「南吉回想の窓」、「おぢいさんのランプ」型ベンチ、「良寛物語」型ベンチなどがあります。
12	南吉の下宿先（新田町）	昭和14年4月から、安城で下宿を始めた南吉。部屋は長屋門の一室で、八畳一間のみの離れです。南吉が、生涯の代表作をつぎつぎに書き上げたのは、まさにこの部屋です。下宿は、平成25年、当時の姿のままに修復され一般公開をしています。

